

# 2022 年度中学入試はこう行われた！

安田教育研究所  
安田 理

## 全体の状況

### 3 模試とも受験者数は増と推定

どのくらいの人が中学受験をしているか、という数字は実は公的な機関はどこも出していない（東京都教育委員会の場合は、小学 6 年生がどのような学校種＜公立、国立、私立、公立中高一貫校＞に進学したかという数字を 12 月ごろに公表）。で、中学受験者数は、大規模な模試を行っている会社がそれぞれに推定して出している。

○首都圏模試 1050 名増で 51100 名

○日能研 700 名増で 62400 名（公立中高一貫校を含む）

○四谷大塚 1500 名増で 53500 名

日能研は減っている公立中高一貫校を含んでいるので増加幅は小さいが、首都圏模試、四谷大塚とも前年より増加幅は大きく出している。

### 増えた地域、増えた学力層は？

#### ○東京 23 区と埼玉で大幅増加

東京 23 区が 5.7%、多摩地区が -0.2%、神奈川が 1.7%、千葉が 7.4%、埼玉が 12.6%。

埼玉は全体的に増えているが、県内の受験生が増えたというより、他都県からの受験生が増加している。特に栄東は、コロナ前は 4 回受験できたものが、昨年はコロナ対応で受験機会が 3 回に減っていたが、今年は再び 4 回受験できるようにしたため 2000 名も増加。

#### ○難関校、上位校は増えていない

私立中学について男女別日程別出願者数を出してみた。↑は前年より増加していること、↓は前年より減少していること、—は前年と同数であることを表す。2 月 1 日については、午後入試は別の欄を設けたが、埼玉、千葉、2 日、3 日については同一欄にし、午後入試については下線を付した。

埼玉、千葉は難関校、上位校も増えているが、東京は増えていないことがわかる。

## ■男子

1月中埼玉	出願者数	1月中千葉	出願者数	2月1日午前	出願者数
栄東A↑	4478	市川①↓	1557	開成↓	1206
立教新座①↑	1802	東邦大東邦前期↑	1393	麻布↑	934
栄東B↓	1744	渋谷幕張①↑	1281	早稲田①↓	756
大宮開成①↑	1197	専大松戸①↑	947	武蔵↑	640
栄東東大特待↑	1093	芝浦工大柏①↑	841	慶應普通部↑	619
開智先端①↑	833	昭和秀英①↓	625	駒場東邦↓	565
埼玉栄①↑	832	芝浦工大柏②↑	619	海城①↓	545
獨協埼玉①↑	793	専大松戸②↑	613	芝①↑	525
城北埼玉①↓	771	千葉日大一①↑	509	本郷①↓	522
大宮開成②↑	745	麗澤①↑	466	日大豊山①↓	478

2月1日午後	出願者数	2月2日	出願者数	2月3日	出願者数
東京都市大付①↑	1242	明大中野①↓	1042	浅野↓	1737
獨協②↑	741	本郷②↓	1025	早稲田②↑	1318
世田谷学園算数↑	674	日大豊山②↓	804	海城②↑	1315
巣鴨算数↓	591	世田谷学園②↓	783	成城②↑	1111
国学院久我山ST①↓	487	栄光学園↓	750	慶應中等部↓	1012
東京農大一①↑	428	城北②↑	746	日大豊山④↓	736
神奈川大附①↑	389	聖光学院①↑	650	日大豊山③↓	660
山手学院特待↓	388	東京都市大付②↑	647	学習院②↑	514
東京電機大学②↑	369	法政二①↑	630	都市大等々力②特選↑	463
青稜①B↓	353	攻玉社②↑	590	日大二②↓	403

## ■女子

1月中埼玉	出願者数	1月中千葉	出願者数	2月1日午前	出願者数
栄東A↑	2537	市川①↑	900	女子学院↑	769
浦和明の星①↑	2036	東邦大東邦前期↓	840	吉祥女子①↑	606
淑徳与野①↑	1752	国府台女子学院①↓	803	鷗友学園女子①↓	603
栄東B↑	1162	昭和秀英①↓	645	桜蔭↓	557
大宮開成①↑	950	渋谷幕張①↑	640	フェリス女学院↑	464

埼玉栄①↑	842	和洋国府台①↑	637	香蘭女学校↓	388
獨協埼玉①↑	596	専大松戸①↑	625	雙葉↓	381
開智先端①↓	594	麗澤①↑	464	山脇学園A↑	375
大宮開成②↑	525	専大松戸②↓	398	女子美術大付①↓	356
埼玉栄②↑	505	和洋国府台②↑	379	共立女子 2/1↓	354

2月1日午後	出願者数	2月2日	出願者数	2月3日	出願者数
山脇学園英・国・算↑	949	豊島岡女子学園①↓	1102	横浜女学院 2/3 午後↑	1127
横浜女学院 2/1 午後↑	893	吉祥女子②↑	977	豊島岡女子学園②↑	966
広尾学園②↓	566	山脇学園B↑	802	鷗友学園女子②↑	714
実践女子学園②↑	529	洗足学園②↑	720	恵泉女学園③↓	504
恵泉女学園①↓	453	大妻②↑	681	学習院女子B↑	486
東京農大一①↓	451	香蘭女学校②↓	652	東洋英和女学院B↓	480
神奈川大附①↑	381	共立女子 2/2↓	589	慶應中等部↓	475
普連土学園算数↑	367	横浜女学院 2/3 午後↑	572	実践女子学園⑤↑	470
三輪田学園①午後↑	363	恵泉女学園②↑	557	広尾学園小石川④↑	462
東京女学館②↓	346	中大横浜②↑	556	横浜共立学園B↓	443

#### <男女別内訳を出していない学校>

西武学園文理、細田学園、昭和学院、成田高校附属、ドルトン東京学園、八王子実践、法政大学、三田国際学園、明星

#### ○チャレンジを避け、安全志向

2月1日、2日を見ると、男子は、2月1日午前は10校中6校が、2日は5校が前年より減っている。つまり受験者は大きく増えているにもかかわらず、難関校・上位校は必ずしも増えていない。チャレンジをしない受験というのが、去年と今年と続いた動向と言える。

女子も男子ほどではないものの、2月1日午前は減少校が6校と多い。2日は増加校の方が7校と多いが、全体の受験者数の増加からすると難関校・上位校は増えていない。

掲載の表に限定せずに2022年度入試を追いかけていて気が付いたことを取り上げてみる。出願状況を見ていた時に、もっとも易しい学校群の第1回入試の多くが前年より出願者数を増やしたことに気が付いた。絶対数こそ少ないが、例年だと苦戦が避けられないこうした学校が率ではかなりアップしたことが顕著な動向であった。これはコロナ禍における対応の公私の差が盛んに報道されたことで、急遽私立受験に向かった層が一定数いたことによると思われる。当然、易しい学校に向かうわけである。都県によって状況は異なるが、2022年度入試の受験者増の要因の一部にはこうしたことがある。

## 付属校志向は止まる

### ○MARCH系はほとんどが減

付属校は、わかりやすく増加校と減少校にまとめて分けると、

大学	増加校	減少校
早稲田大	早稲田、早稲田高等学院	早稲田実業
慶應義塾大	慶應普通部、慶應湘南藤沢	慶應中等部
明治大	明大中野八王子(前年と同数)	明大中野、明大明治
青山学院大		青山学院、青学横浜英和、青学浦和ルーテル
立教大		立教池袋、立教新座、香蘭女学校、立教女学院
中央	中央大附、中央大附横浜	
法政		法政大学、法政二
学習院	学習院女子	学習院
日本	日大一、目黒日大、日大藤沢	日大豊山、日大豊山女子、日大二、日大三、日本大、千葉日大一
東海	東海大相模、東海大浦安	東海大高輪台

早慶は共に3校中2校が増え、明治系は3校中2校が減少、青山学院系は3校とも減少、立教系は4校とも減少、中央系は2校とも増、法政系は2校とも減だった。学習院は女子が増えて男子が減。つまりGMARCHの付属は、減少の方が圧倒的に多くなっている。

前年大半が増加していた日本大系も減少校のほうが多くなり、東海大系は3校中2校増えている。このように付属校全体を見ると、一時ほどの付属志向ではなくなっているというのが大きな特徴と言える。

## そのほかの動向は？

### ○コース制に見られた現象

- ・上位コースが増加、下位コースが減少

東京都市大学付属、淑徳、八王子学園八王子、安田学園など、学力別コースの代表的な学校で、上位コースは増加しながら下位コースは減少しているケースが目立った。下位コースに入学する意味を疑問視か。



## ・サイエンス系コースが注目される

教育内容でのコースと言えばグローバル系が多かったが、ここへきてサイエンス系コースも出願者数を増やしている。

学校名	コース・クラス名	応募者数(1回目)
世田谷学園	理数	151
広尾学園	医進サイエンス	496
三田国際学園	メディカルサイエンステクノロジー	427
春日部共栄	IT医学サイエンス	150
江戸川取手	医科	213

今回のコロナ禍で、日本のデジタル化への立ち遅れが非常にはっきりした。これから何十万単位で IT 人材が不足してくると言われており、保護者はこうしたこれからの社会の動きについて非常に敏感である。そうした背景がサイエンス系コースの選択につながっているとみていいだろう。

大学はすでに理工系にシフトしている。今年、奈良女子大が工学部を開設したが、来年以降もお茶の水女子大に共創工学部、一橋大にソーシャル・データサイエンス学部、共立女子大に建築・デザイン学部、神奈川大に化学生命学部と情報学部、北里大に未来工学部といった具合に続々と誕生する。これは同時に進路先として理工系にチャンスが広がるということでもある。

### ○高大連携が多い学校が人気

付属志向は止まったが、その一方で、高大連携に力を入れている学校が人気を集めた。例えば麴町学園女子、玉川聖学院、捜真女学校、横浜女学院、順天など。

### ○堅実な学校選択

リモートワークで家にいる時間が増えてデータをしっかり確認できたからだろう、着実に伸びている学校を選択する保護者が増えている。

例えば成城、田園調布学園、富士見、三輪田学園、駒込、神奈川大附、関東学院など。

## 最後に、受験生、保護者の学校選びの特徴は？

- 受験生の学校選び・・・◇先輩（在校生）が優しそう ◇やりたい部活がある
- 保護者の学校選び・・・◇本人にとって楽しく、充実した6年間であってほしい
- ◇次の時代を生き抜くスキルを付けてほしい ◇でも『進路保証』もほしい